

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894200084		
法人名	株式会社 佐公間建設工業		
事業所名	グループホームたんぼぼ那波の家		
所在地	兵庫県相生市那波大浜町24-23		
自己評価作成日	令和5年1月26日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2894200084-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和5年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの理念に添えるようなケアを、意識しています。利用者様一人ひとりが主人公になれるようなケアで、その方に合わせたケアを考え、穏やかに過ごせるよう心がけています。また、ご家族や地域との交流が難しい時期ではありますが、「たんぼぼだより」を毎月発行し、ホームでのイベントの様子や日々の過ごし方を写真と文章で作成しお送りしております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設してから間もなく満5年を迎える。これまで「一人ひとりが主人公になれるようなケア」、「地域に根ざした家庭的な雰囲気のもとにおけるケア」、「暖かい温もりのある居場所づくり」等の5項目を理念に掲げて、その人らしい暮らしを支える利用者本位のケアに取り組まれている。新型コロナウイルス感染状況の様子を見て海沿い付近の散歩、地域の名所や風物の見学のためのドライブによる外出を取り入れたり、職員と利用者と一緒に利用者さんの残存能力を活かして、食事作りや作品作りを楽しみながら、日々の暮らしの中で利用者さんに寄り添った支援に努めている。今後は、地域密着型サービス事業所として地域運営推進会議の意義や役割等について理解を深め、多様な参加者の意見交換を通じて運営の質の確保・向上が図られることが楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域の一人として明るく元気な街作りを目指す・地域に根ざした家庭的な雰囲気でのケアを行う事を今年も継続している。1人1人が実践できる意識が持てるように利用者様と職員が理念を書きとめ、色んな場所に提示している。又、出勤時に玄関の理念を確認してから行事に入っている。</p>	<p>理念は、重要事項説明書に記載されているが、パンフレットには記載されていない。事業所内の壁面など理念を手書きされたものが掲示されている。利用者が穏やかに過ごせるようにケアし、利用者が嫌がることはしない、と日頃からのケアについては話をされているが、職員への周知や掘り下げて話をされる取り組みが確認できなかった。職員へは今後、理念についての話をする機会を作る予定である。具体的な振り返りで、理念に結びつけた話も期待される。</p>	<p>事業所の理念として、その内容を利用者家族や見学に来られた方や地域へ発信されることが望まれる。また、職員に対し理念を共に理解し掘り下げて考える取り組みが期待される。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で地域行事などへの参加は減っているが、密にならない状況と時間を選び、地域のかかしまつりや紅葉を見に行ったり、地元のまつりをホームの周辺で見学して楽しんだ。</p>	<p>周辺を散歩する時にゴミ拾いをしたり、地元の一斉清掃には法人の職員が参加されている。11月に開催される地域の「かかし祭り」には、人出が少ない時期を選んで出かけられ、紅葉狩りにも行かれたとうかがった。自治会には入会され、地域の集まりや行事には利用者が参加できないときでも、できるだけ職員が参加して地域との繋がりを継続されることを検討されている。秋祭りでは、お神輿が事業所の前を通る時に、利用者と一緒に応援することができた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>見守りネットワークに登録しているが新型コロナウイルスの影響で活動ができていない。運営推進会議で民生児童員の方や小学校、中学校の先生、地域の事業所の方に情報を発信している。</p>	/	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では利用者様の様子や事業所での出来事やイベント等を報告し、民生児童員の方や小学校、中学校の先生、地域の事業所の方から情報や助言を頂いている。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回、事業所内で開催されているが、昨年7月は書面での報告のみとなった。構成メンバーは、相生市長寿福祉室、相生市包括支援センター、那波小学校教諭、福祉用具の事業所介護支援あい、那波中学校、民生児童委員などが予定されている。地域の方々からの意見も出されているが、利用者家族の参加はうかがえない。今後は利用者家族への案内と、書面開催の場合には、事前の意見を聞く取り組みが望まれる。</p>	<p>運営推進会議の役割を果たすためにも、利用者家族の参加は外せない。家族会ができなくてもこの会議では、地域の方々と一緒に運営に関する意見を聞く機会を作り、家族の参加を得て実施してほしい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議などで定期的な情報共有し、また事業所で判断できない案件などは市役所担当者に相談している。</p>	<p>普段は、書類等を届ける程度の繋がりであるが、困った時などの問い合わせ、相談などがしやすい関係が継続されている。情報交換や研修などが実施されていたグループホーム連絡会は、現在開催されていないとうかがった。</p>	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束の研修で理解を深めている。また、管理者は職員からの相談を受け、その内容が身体拘束につながるようなケアの場合は、理解できるよう説明し身体拘束のないケアになるようすすめている。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回、5月、7月、11月、3月に計画をされ開催されている。研修はDVDを使用して学んでおり、身体拘束等の適正化に関する指針を文書化し、契約時に説明して確認の署名をいただいている。玄関は自動ドアでロックされているが、利用者が外へ出たいという行動がある場合には、職員が一緒に外へ出るようにされている。	
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待についての研修を行い学びを深める。小さなことでも虐待にならないかを職員同士で確認し合えるようにしている。また、管理者はケアや業務にストレスがないか確認し、問題がある場合は改善方法を話し合いを行う。	虐待防止に関する研修は、8月と3月に計画されている。8月にはDVDを利用した研修を実施され、スピーチロックについても、具体的に『ちょっと待って』という言葉も使わないように指導されている。また、利用者との相性も配慮したケアにも柔軟に対応するように指導されている。業務が煩雑にならないように、残業0を目指し、記録にタブレットを取り入れて、業務負担の軽減化にも取り組まれている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の研修で権利擁護、後見人制度について学ぶ機会がある。実際には後見人制度を利用していないが必要であれば関係者と話し合い、活用出来ればと思う。	11月に成年後見制度についての事業所内研修を実施された。パンフレットは職員には配布されたが、事業所への設置には至っていない。利用者家族への説明は、行ったことがあるとうかがった。今後は、地域包括支援センターの協力を得て、運営の推進会議などで取り上げていくことが期待される。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書を見ながらご家族様や本人様などに説明している。本人様やご家族の不安や質問もお聞きし対応している。	契約前には、ほとんどの利用者家族が見学に来られ、できるだけ利用者本人にも見学していただくことをお願いされている。見学時には、管理者またはケアマネージャーが案内して、事業所内、居室、料金などについて説明され、重度化した場合のこと、入院時のことなどについても聞かれることが多い。契約時には、事前の確認書などを準備して説明や確認がなされている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族からの意見や要望については管理者や職員などで話し合い、できる範囲で対応している。わからないことは市役所担当者や包括支援センターなどに相談している。	意見箱の設置はされておらず、家族からの意見は、電話での相談などが多い。面会の機会を増やしてほしいとの意見をいただいている。現在は、昼間、短時間でのベランダでの面会をお願いされている。事前に健康チェックをされた上での面会をお願いしているので、もっと会いたいとの希望が多い。新型コロナウイルス感染症の流行の前までは年1回家族会を開催しておられたが、現在実施されていない。家族アンケートの実施の取り組みも期待される。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が意見を言いやすい関係性を築くようにしている。また特定の職員の意見や提案だけでなく全職員の意見を反映できる様に話し合うことを勧めている。	ケア会議時に限らず、日々の業務の中で意見交換できる環境にあり、利用者のケアについての意見や、今までしていたケアをより良くするための提案などが出ている。身体拘束廃止委員会の際には、各階のリーダーと一緒に話す機会もあった。勤務体制については希望も聞きながら組んでおられるが、個人面談の実施には至っていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は代表者と相談し職員の勤務実績や個々の努力、実績を把握し公平に判断し給与水準アップに努力している。処遇改善ⅢからⅠへとし、特定処遇改善Ⅱ、ベースアップ支援加算など取得し給与、賞与アップにつなげている。また、介護記録を手書からタブレットPCに入力できるシステムを導入し、業務改善へとつなげ、残業のない職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響で外部研修には行けなかったが、オンラインの研修に参加したり、事業所内で研修をしている。また資格取得のための講習などに参加する際は勤務調整など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で同業者と交流する機会は少ないが、同業者との連絡会などに参加し、意見を交換している。また、分からないことは他の事業所などに電話で相談している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前になるべく多くの情報を職員と共有し、どのような対応をするかを話し合う。利用者様やご家族の不安や要望をお聞きしスムーズに良いケアができよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族と連絡をとり困りごとについて話し合い、要望や不安なことをお聞きし、安心して入所できるよう説明する。その中で気付いたことについても職員と情報共有し、ご家族と良い関係性を築けるように努めている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状態を確認し、グループホームでの生活が適切かを話し合う。もし、違うサービスが適している場合などはそのサービスの説明し、できる限り支援している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様それぞれの考えや過ごし方を尊重している。無理に嫌がる介護をしないようケアしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員はお互いに話し合い協力し相談し合える関係性を築けるように努力している。また本人と家族の関係性も大切にしてお互いに安心できるようにしている。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で馴染みの人会うことや馴染みの場所などに行くことは困難であったが、感染状況をみながら外出やドライブに出掛けて地域の馴染みの場所の見学に出掛けた。また、馴染みの人には感染対策をしながらテラスで短時間の面会や手紙やはがき、年賀状を書く場合は支援している。	家族との面会は、平日だけでなく、日祝日も希望に応じて予約してもらっている。利用者の以前の住まい、神社、海沿いの釣り場、野瀬ふ頭、らかんの里などへ出かけて昔のことを思い出される利用者も多い。利用者から年賀状を書きたいとの希望もあり、準備や投函の支援をされている。散髪は訪問理容で対応され、配偶者の法事やお墓参りにも出かけられた利用者もある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で上手く関われる場合と上手く関われない場合があるのでその都度、席を変えてみたり、一緒に楽しめるレクリエーションなどで関係が築けるようにしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院や他施設などに連絡し必要に応じて支援している。また、退居後も相談などある場合は連絡して頂くよう伝えている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が本人の希望や意向を確認している。できる範囲で本人の希望などに添える様になっている。難しいことに関しては職員同士で相談し本人様と相談し解決できる方法を検討している。	ケア会議は、1階2階それぞれの職員と、ケアマネージャーと管理者と看護師が参加されている。ケア会議の記録には、個々の利用者の状態が記載されており、言葉が出にくい利用者には、表情やレクリエーションなどの様子で把握されるとうかがった。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に以前の生活の状況や特技、仕事などの情報を口頭や文章で伝え共有している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で一人ひとりの状態を把握し、気になることは職員間で情報を共有し対応を検討している。		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に変化等ある場合は、本人、ご家族に相談しケアの方法を話し合い介護計画を見直している。	1年に1回の介護計画作成となっている。家族、介護担当者、管理者、ケアマネージャーなど、関係者が集まり担当者会議を開催されて介護計画を作成されている。かかりつけ医や看護師には事前に話を聞いたり、薬剤師が参加する場合もある。モニタリングは毎月実施されている。本人の意向、希望などについて、日々の暮らしの中から吸い上げる工夫も期待したい。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本年度10月よりタブレットPCを使い記録を入力している。それにより利用者の状態などが確認しやすくなり情報共有できている。またケア会議でも情報を共有し必要に応じて介護計画の見直しを行う。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲で柔軟に対応し、必要に応じて家族やその他の関係機関に相談して支援の方法や他のサービスの利用を検討している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で地域資源の活用はあまりできていない。地域の方やご家族と相談しながらできることからすすめていきたい。		

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望するかかりつけ医を受診している。また、適切な医療がうけられるように近隣の医療機関の診療科の把握に努めている。	利用者のかかりつけ医は、利用者家族の希望に沿って、家族の付き添いや、職員が対応して受診を継続されている。受診時の情報は家族から聞いて、その都度共有されている。相生市民病院から医師が2ヶ月に1回程度の診療を行っておられる。薬剤師は2週間に1回訪問し、薬の管理をされており、歯科、眼科、外科、整形外科、診療内科などは、それぞれに基本家族の付き添いで受診されているが、どうしても都合がつかない場合には職員が付き添い受診されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の状態の変化に気づき、必要に応じて看護職に相談して対応を検討している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行う。また医療機関の地域連携室と連絡をとり、状態の確認や退院時の調整、看護サマリーを提供していただく。	入院される場合には、基本情報や近況などを情報提供され、スムーズに入退院できるように支援されている。退院時カンファレンスは、その後のケアなどに大きな変化がある場合に参加されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を説明している。ご家族様には事業所のできる対応を説明し、多職種と連携可能な範囲で対応している。	事業所として重度化や終末期に向けた指針を文書化されて、看取りに関する考え方、ターミナル期の援助方法などについても文書化されている。契約時にその内容を説明し、確認の署名押印をいただいている。緊急時等の利用者家族の意思確認書も作成し、事前に確認されて緊急連絡先も記載されている。医療的対応説明および緊急時意向確認書も全員の利用者に確認されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを会議や研修で定期的に確認し対応を再確認している。気になることについては、その都度職員で相談し対応している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や地震津波を想定した避難訓練などを行った。また、災害時の備蓄を確認し、地域の避難場所、地域の協力を得られる方や同一敷地内の小規模多機能型居宅介護事業所とも連携しながら災害時の体制を定期的に検討している。	消防訓練は年2回実施されており、自然災害についても地震、水害、津波など、起こりえることを想定して訓練をされている。運営推進会議の構成メンバーの中で協力が得られる地域の方もいる。BCP(業務継続計画)も現在取り組んでおられることがあった。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修の中で個人情報やプライバシーについて学び、その中で利用者様尊厳をまもれるような対応についても学ぶ。日々の声掛けや対応についても利用者様の意見や思いを尊重し、ケアできるようにしている。	7月に、職業倫理と接遇のDVDによる研修を実施された。内容は、「個人情報の漏洩とプライバシーの侵害」をテーマとして実施されている。また日々のケアで、排泄介助や入浴介助時にもプライバシー保護がなされるよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で本人からお話をお聞きし、その中で本人の希望や思いを理解している。職員会議でもそのことを話し合い利用者様の希望にそってケアできるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合わせた日々のスケジュールはあるが、その日の状態に応じて柔軟に対応している。体操や歩行訓練の時間は決まっているが声掛けは参加は自由にし、利用者様はマイペースに自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自分で選んでいただく。定期的に訪問美容などでカットや毛染めやパーマなども希望に応じて対応して頂ける。また、衣服の購入などご家族の対応が困難な場合は確認し、買い物の支援を行っている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備でお野菜のカットや盛り付けや片付けなどを手伝って頂く。お誕生日などには好きな食べ物をお伺いして調理している。また、おやつを利用者様と手作りすることもある。(スイートポテト、ホットケーキ、干し柿)	献立は職員が考えて、食材の買い物、調理、配膳もされている。切る、食器を洗うなどを手伝ってくださる利用者もある。駐車場に菜園があり、サツマイモ、ジャガイモ、ゆず、トマト、きゅうりなどを栽培されている。収穫は、できるだけ利用者にお願している。 誕生月の利用者が好きな食べ物を聞いてメニューを決めている。日常は、利用者の2、3人が手伝いをされており、節分の際には、利用者全員の方がご自分で巻き寿司を巻かれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態で提供している。摂取量も確認し不足な場合は栄養補助ドリンクなどで対応している。水分量もタブレットPCIに入力し確認している。たくさん水分量が必要な方は別に水筒に入れてお渡ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、口腔ケアの声掛けを行っている。また訪問歯科により定期的に状態を確認して頂く。気になることがある場合はその都度相談し、訪問歯科による助言や指導を受ける。		

自己	第3者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせた排泄の声掛けを定期的に行い、失敗の無いよう心掛けています。羞恥心にも考慮しトイレ支援には気を配るようにしています。	介護のソフトを利用して、タブレットで水分摂取量やトイレ誘導、排便状況などを記録され、職員で共有されている。利用者のリズムや記録を把握し、できるだけトイレ誘導をされている。退院時おむつ対応だった利用者にはトイレ誘導を進めて、リハビリパンツに変えて自立支援に向けて取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態をタブレットPCに入力し、排便の無い日数が表示される。その方の排便の対応に合わせて下剤を服用される方やヨーグルトや便通が良くなるお茶などで対応する場合もある。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決めているが、その方の希望や状況に合わせて入浴のタイミングを変更している。入浴の順番や時間もその方の状態に合わせて対応している。	入浴は週2回程度、利用者の好きな時間帯に入れるように支援されている。介護度が高い利用者にも対応できるように、シャワーキャリーを準備されて、職員の負担も軽減されるよう配慮され、利用者も安心して入浴できる環境を整備されている。事業所の裏庭にゆずの樹があり、そのゆずでゆず湯をされた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時はその方の過ごし方やエアコンの温度なども個別にお聞きし対応している。眠れないなど相談がある場合は希望により暖かい飲み物などを提供している。不眠が続く場合は主治医に相談する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の内容が変われば、受診連絡ノートに記入し周知している。また分からないことや気になることは居宅療養管理指導の薬剤師さんに相談し教えていただく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にはその方の楽しみや特技、好きなことをお聞きして、ホームで楽しんで過ごせるように工夫している。職員で上手に工夫して塗り絵やパズル、音楽、カラオケ、カードゲーム、風船バレーなどして楽しく過ごせるようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外に出ることが減ったが、ホーム周辺の散歩やドライブに出掛け、市内の馴染みの風景や場所をみながら楽しんでいる。また感染の状況をみながら公園などでお花見をしながらお弁当を食べる行事を行った。	新型コロナウイルス感染拡大の影響により外出の機会が減少はしているが、周囲の感染状況をにらみながら利用者及び職員の気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として事業所周辺の海沿い付近の散歩、菜園の野菜収穫や神社への初詣、羅漢の里の紅葉狩り、「かかし祭り」の見学のためのドライブなど日常的な外出支援を行っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に合わせてお金を持って頂く。使用する機会があまりないが、新型コロナウイルスの状況を見ながら買い物支援も再開できればと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある場合はホームの電話でご家族に電話したり、携帯電話をお持ちの方は携帯電話でご家族とお話されている方もいる。電話の使いかたが分からない場合は支援している。また手紙やはがきが届いて返事を書く場合もお手伝いしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や居心地よい場所になるよう心掛けている。季節に合わせた作品をみんなで作成し飾ったりしている。また観葉植物を置いたり、周辺でとれたクワガタやカニを飼育してみたり職員で色々楽しめる工夫をしている。	玄関入口を入ると、手書きの理念が貼られており、それをとり囲むように大きな花飾りのリース掛けられており前を通る人の目に止まる。階段の踊り場には生花が飾られている。1階、2階とも廊下、居間兼食堂、トイレ、浴室等の共用空間は清掃がいきとどき、居心地よく過ごせるように環境整備が行われている。居間兼食堂の壁には利用者の書初め、福笑いの作品群や手編みの十二支の作品や行事の写真等が飾られ、要所要所に生花や観葉植物が配置されて季節感と生活感が溢れており居心地のよい空間づくりの工夫と配慮がうかがわれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々状況を見ながら、利用者様の席を工夫している。席替えなどが必要な場合は職員で相談し居心地の良い場所になるよう座布団やクッションなどで工夫したりしている。また足をあげたい方には台を置き足を置けるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた机やテレビやマッサージ機なども持ってこられている。また、ご家族の写真を飾ったり思い出の置物を置かれたりして過ごしやすい空間になるようにご家族にも協力して頂く。	居室には、ベッドが備え付けられ、掃き出し窓になっており、ベランダに出ることが出来るようになっている。ダンス、洋服掛け、テレビ、時計等思い思いの使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、壁には塗り絵や写真が飾られおり、その人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の特技やできることを理解し、手伝って頂く。職員のできないことや分からないことは利用者様に手伝って頂いたり、教えて頂きお互いに協力し合える関係で安全で自立した生活が送れるように心掛けている。		